

○事業所名	こどもサークル小川（放課後等デイサービス）		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 17日		2026年 1月 16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	2025年 12月 22日		2026年 1月 23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 23日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	放課後や長期休暇中の安心できる居場所として健康・生活面の安定を支えつつ、遊びや活動を通じた身体の動きを取り入れた運動・感覚への支援を行い、活動の見通しやルール理解を通じて認知・行動の調整力を育てるとともに、日常的なやり取りや集団活動の中で言語・コミュニケーション能力の向上を図り、集団生活の経験を通して人間関係・社会性を高める支援を行っている。	児童が安心して参加できるよう、活動内容や役割設定を工夫している。必要に応じてスモールステップでの課題設定を意識している。	療育的視点をより明確にした活動プログラムの整理や年齢・発達段階に応じた段階的支援内容を構築する。
2	個別支援に基づき、集団課題や多様な体験活動を通じて、自己肯定感を高める支援を実施している。	児童同士の関わりを大切に、必要に応じて職員が仲介・支援する関わりを行っている。また、問題行動が生じた際は、背景要因を考慮した関わりを意識している。	専門職による助言及びケース検討等の定期的な研修や定期巡回を実施する。
3	学校や家庭、関係機関との情報共有を行い、児童の生活全体を見据えた支援を心がけている。	日々の活動を通して、生活スキルの定着を意識した支援を行い、成長や成功体験に対してポジティブなフィードバックを意識し、達成感を得られる支援を心がけている。	個別支援計画と日々の活動を結びつける評価・振り返り体制の強化。将来や進路を見据えた関係機関との連携を強化する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	療育支援と生活支援の区別について、外部からわかりにくい側面がある。	放課後における限られた支援時間の問題から、日常の活動が中心となる支援形態であるため、活動内容と療育的な目的が個別支援計画との関連性が分かりにくくなりやすいという課題がある。	年齢や発達段階、ライフステージに応じた段階別支援プログラムを整備する。
2	学年・発達段階の幅が広く、支援内容が個別化しにくい場面がある。また、思春期・高学年児童への支援について、職員間で経験差が生じている。	年齢や発達段階、障害特性が多様であるため、支援ニーズが幅広く、支援内容の専門性や一貫性を均一に保つことが難しい側面がある。	思春期支援や行動支援など専門的な視点が必要な支援に関する職員研修を充実する。
3	卒業後の進路や社会参加を見据えた視点が十分とは言えない。	高学年・行動支援に関する専門的研修の機会不足や進路・将来支援に関する事業所ノウハウの不足。	就労支援・進路支援事業所や相談支援事業所等との連携体制を構築する。